

病院のヒューマンエラー対策

1 ヒューマンエラーの実態


1 ヒューマンエラーの実態

1) 医療事故の多くはヒューマンエラー

不可抗力で起きてしまった場合

人為的なミスや怠慢によって起こった場合

**患者の行動による事故
転倒転落事故**



事例

| | |
|---|--|
| <p>患者が病床から転倒し怪我をした。 患者が廊下を歩行中に転倒し怪我をした。</p> | <p>患者に問題があることもないわけではないが、多くは病院や医療職に問題がある</p> <p>患者が医療者の指示を厳守していない結果だが患者の自己責任とは言えない。 院内においては医療者が患者の安全を確保しなければいけない。</p> |
|---|--|

1) 医療事故の多くはヒューマンエラー

医療事故は、2つに類型化できます。一つは不可抗力で起きてしまった場合、もう一つは、人為的なミスや怠慢によって起こった場合です。

人為的なミスや怠慢があつて事故に至った場合、患者に問題があることもないわけではありませんが、多くは病院や医療職に問題があります。


患者の行動による事故があります。患者の転倒転落事故は典型です。

患者が病床から転倒し怪我をした。

患者が廊下を歩行中に転倒し怪我をした。こうした事例については、患者が医療者の指示を厳守していない結果であるから患者の自己責任と言いたいかもしれません。

しかし、院内においては医療者が患者の安全を確保しなければならないのです。

医療職自身による自損事故
自分の過ちにより、自ら怪我をしたり損害を被ったりする。

| | | |
|---------------|--|---|
| 誤 針 | 看護師が自分の手に針を刺してしまい事故を生じた 感染により医療者の命にかかわる場合も存在 |  |
| ハラスメント | 女性看護師はストーカー行為やセクハラ行為 患者による暴力行為の危険（モンスターベイシエント） 医療事故との線引きは難しい | |
| 誤診・誤処置 | 診断をあやまる 処置を間違える 患者の取り違え 誤薬など | |

また、医療職自身による自損事故があります。自分の過ちにより、自ら怪我をしたり損害を被ったりします。

たとえば、誤針です。看護師が自分の手に針を刺してしまい事故を生じたなどという場合です。感染により医療者の命にかかわる場合も存在します。

ハラスメントに関わる被害もあります。特に女性看護師はストーカー行為やセクハラ行為、患者による暴力行為の危険にも晒されており（モンスターベイシエント）、このような事案のどこまでを医療事故とするかの線引きは難しいです。

医療職の誤診や誤処置による事故があります。診断をあやまることもありますし、処置を間違えることもあります。

また、患者の取り違え、誤薬なども注意義務が果たされていない場合の事故です。

2) ヒューマンエラーにおける過誤と過失

担当領域に関して専門知識がない為に起こるエラーは誤りには違いないですが過失です
過失とは注意を欠いていて結果の発生を予見しなかったこと

①判断と決断の誤り

概念や推理とともに思考の根本形式が判断

決断はきっぱりと決める

判断には尺度や基準が必要に、決断には強い意志

②設備・機器の操作技術の誤り

操作手引きが間違っている場合もある

手引きと異なる操作をしたためにエラーが発生

2) ヒューマンエラーにおける過誤と過失

担当領域に関して専門知識がない為に起こるエラーは誤りには違いないですが過失です。

過失は点検や検査が不適合あるいは不十分な場合も該当しますし、申し送りや申し受けの連携や調整が不十分である場合も過失となります。過失とは注意を欠いていて結果の発生を予見しなかったことをいいます。

①判断と決断の誤り

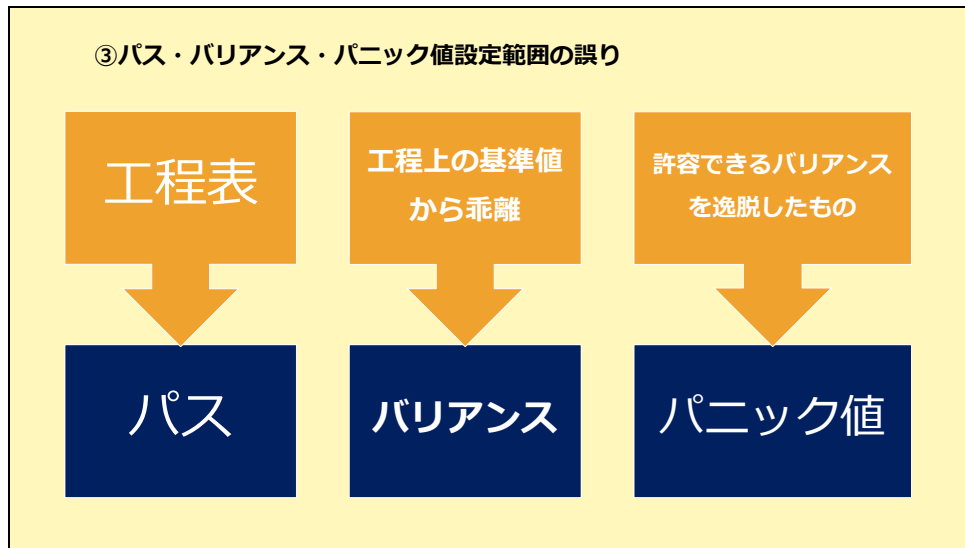
概念や推理とともに思考の根本形式が判断です。

ある物事について自分の考えをこうだと決める際に誤りが起こります。決断はきっぱりと決めることです。

判断には尺度や基準が必要になりますし、決断には強い意志が欠かせません。

②設備・機器の操作技術の誤り

時には操作手引きが間違っている場合もありますが、多くは手引きと異なる操作をしたためにエラーが発生します。



③パス、バリエンス、パニック値設定範囲の誤り

工程表がパスです。

工程上の基準値から乖離したものがバリエンスです。

許容できるバリエンスを逸脱したものがパニック値です。